

# 北陸石仏の会々報

第 9 号

平成7年3月10日発行

編集発行

北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)

代表 藤村 善雄

電話 〇七六三―三二二―二七二

〒939-13 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方  
振替 〇〇七四〇―二二―一九七四

## 寒念仏信仰

### 村松町とその周辺を中心として

梅 田 始

空也、良忍、法然、親鸞、一遍などによって、平安中期から鎌倉時代にかけて説かれた念仏の教義は、念仏行者、念仏聖、毛坊主などにより全国に広まり、年中行事としての百万遍、念仏踊、寒念仏、雨乞い念仏、虫送り念仏などの形で広く伝承されている。寒念仏は元来僧侶の修業の一つで、実践的には難行であり、春秋の温暖な時節の念仏より功德が大であると信じられて、民間にも行なわれるようになった。江戸の市中を鉦を叩き念仏を唱えながら歩く白衣の寒念仏は、一つの風物詩として冬の季語にもなった。

民間の寒念仏は室町中期以降に始まるとみられ、近世は江戸中期以降各地に流行した。本来、寒念仏には寒中三十日間、寒夜に諸々を巡りながら鉦を叩き念仏を唱える行法と、村堂に講中が集まって和讃、念仏を唱える二とおりがあった。

村松町周辺の講中で行事の残っている講中はなく、行をした生

存者もない。講中は地域によっては「寒倉講」(かんくら講、かのくら講)などとも呼ばれている。講中によって伝承されている内容に精粗はあるが、寒の入から二十一日間、白衣を着て川に入り、ナナセゴリ(七瀬垢離)、センドゴリ(千度垢離)といった水垢離をとり、念仏を唱えて供養鉦を叩いて村中を回り歩き、夜は親方の家に泊まり家には帰らない。食事も精進料理を食べ、女人の手になる物は口にしないなどとなっている。

寒倉講の忌は厳重である。ほとんどの村で共通することは、魚や四つ足を一週間前から食べず、豆腐などの精進料理を食べ、毛糸や毛皮のものも着ない。また、加茂市黒水の場合は忌詞もあって、生臭物を敵しい人、火箸を二人の人、水を水神様、米や飯を菩薩、藁をボサツガラ、酒をイサミ、お年寄をエビ、火をサンボン荒神様、雨が降るを水神様おくだり、雪が降るを白いお姿おくだり、寒いをオコリが敵しい、などといいかえている。

寒中に川の中で水垢離をすることは、大変辛く、苦しい行であったが、足裏にカニがやってきて温めてくれた。このことからカニの形に編んだ草鞋をつくって履くようになったといわれる。村松町上戸倉の寒念仏供養塔の中に混じってカニをかたどった石塔が三基確認される。また、この周辺の村々では沢蟹を食べない

という習俗も残っている。そして、沢蟹を食べる地域でも「ウドの花が咲いたらカニを食べるな」といって、けっして食べないという習俗は今でも残っている。

村松町中名沢の神倉権現堂の境内には亀の石造物が祀られているが、これも寒行の行者は背にのせたとの伝承を持っており、五泉市橋田では講中の本尊として、亀の背に乗った雨宝童子の掛軸が伝えられている。

新潟県における寒念仏塔の造立数は村松町、二六八基、五泉市、八十基、加茂市、五十基、新津市、十二基、長岡市、十二基、京ヶ瀬村、五基、笹神村、三基、小須戸町、二基、下田村、二基、広神村、二基、山北町、一基、新葵田市、一基、水原町、一基、田上町、一基、栃尾市、一基となっている。この数字を地図の上に刻していくと、能代川流域に多いことに気がつく。加茂市の分は能代川流域ではないが、造塔数の多い地域は小さな峠一つで上戸倉と道が通じており、寒念仏供養塔の中には石工、戸倉村、源次郎の銘のある物もあり、戸倉の影響を受けているをうかがわせる。

寒念仏講がいつ頃、どのようにして流行したかを知る手掛かりは乏しいが造塔の時期は村松町下戸倉、古志王堂にある寛永二年(一六二五)が古く、五泉市羽、十王庵の寛文十一年(一六七二)がこれに次ぐ。また、新しいものとしては村松町笹野町、永福寺の昭和十九年(一九四四)で、それに次いでは加茂市上黒水の昭和十四年(一九三九)である。県内で村松町、それも能代川流域に造塔が集中しているのはなぜなのだろうか。庚申塔などのように普遍的に分布しているものに比べて、一種異質な存在に思えてならない。

## 北陸石仏の会 第九回例会記録

第九回の例会は総会を兼ねて、平成六年十二月三、四日の両日新潟県村松町で開かれた。村松とは、北陸各県の方々にとっては地図の上にあるのだろうか？という声が聞かれたほど未知の地であり、遠かった地であったと思われました。

村松は新潟県内では石仏の多い地と思われる。県内各地にある庶民信仰や、それから派生した信仰のあらゆる種類の石仏があるといってもよいほどいろいろな石仏がある。その中で特長あるものとしては中世の線刻板碑群と寒念仏塔である。今回の例会はこの二種類の石仏を中心にして見学地を定めた。

三日午後二時すぎ、車の方も列車の人々も全員顔がそろそろ。挨拶もそこそこに雨の落ちそうな曇天の下を寺町に向う。寺町の各寺には数体ずつの線刻五輪塔があるが、代表的な塔のある真言宗正円寺を見学する。正円寺墓地、英林寺墓地などと江戸時代に改刻された塔などを見て、曹洞宗英林寺の境内に行ったら無い、石仏が無かった。寺の境内からさえ石仏が無くなる時代なのか。

村松町の線刻五輪塔は四十一基確認してあるが、他に神社の土台石として使われている物など数基ある。記年銘は鎌倉時代末期から南北朝時代で南朝、北朝の両者がある。また新潟県最古の年号もある。参加者の多くの方々は線刻五輪塔という石仏を初めて見る人が多かったようである。

十二月四日、天気予報どうりの時雨模様の荒天となり、当日参加の新潟石仏の会の人々は遅れてくる人が多い。強い雨の中を寒

念仏塔や寒念仏信仰とのかかわりを持つ石造の亀や蟹に逢いに行く。寒念仏塔と一緒に亀や蟹が祀られているのは共に、寒中に水垢離を取って修業する行者の足の下に入って、その行者を暖めてやったためとの伝承を持っているからである。蟹が祀られている上戸倉の曹洞宗長寿院の参道は初雪で白くなり、寒念仏信仰の伝説を持つ六十六部の供養塔もゆっくり見ることが出来なかった。長寿院から慈光寺に向う。

慈光寺は白山山麓にあり、曹洞宗の越後四ヶ道場の一つといわれる名刹で、かつては越後における白山信仰の拠点でもあった。

駐車場から寺まで初雪で白くなった樹齢四百年から六百年という老杉の下で参道を一キロ余も歩く。参道には観音様が立っている。地藏様が座している。姥石も庚申塔もみな白く、まさに夢幻の風景のようである。しかし数多くあるこの寺の石仏もいつの間にか姿を消して行くものがあとをたたない。

(梅田 始)

## 北陸石仏の会 第三回総会記録

平成六年十二月三日(土) 新潟県村松町ふるさと会館に於いて、午後四時より役員会、続いて第三回総会が開かれました。あいにく天候が悪くて出席者は大変だったようです。総会次第に従って、①開会、②会長の挨拶、③議長に、大久保まさ子氏(福井)をお願いして④議事にはいった。平成六年度事業報告、同決算報告、平成七年度事業計画、同予算計画、その他が審議されて承認、決定されました。尚、平成六年度会計報告は、渡辺三四一

氏(会計監査・新潟)に監査を受け、承認されました。

又、前回の総会時にも話が出ましたが、通信費の値上がりその他による、予算不足の件については、毎回の例会の剰余金に依存した、資金計画はよろしくないとの指摘もあり、検討を頂いた結果、年会費は二、〇〇〇円に改定することに決定致しました。続いて、研究発表にうつり、梅田始氏(新潟)より、村松町とその周辺の寒念仏信仰について詳しいお話があり、熱心な質疑応答もあって、充実した総会となり、午後五時すぎに閉会となりました。

### 平成七年度役員

|      |                                                          |
|------|----------------------------------------------------------|
| 会長   | 藤村善雄                                                     |
| 副会長  | 京田良志・北野正明                                                |
| 事務局長 | 柳沢栄司                                                     |
| 監査   | 渡辺三四一                                                    |
| 幹事   | 尾田武雄・平井一雄・島倉千春<br>久世嘉太郎・滝本靖士<br>大久保まさ子・北村市郎<br>石田哲弥・星野紀子 |

### 第九回例会出席者(○印は会員)

- 藤村善雄、○宝勝他女、○沢村美雪、○五十嵐一雄
- 滝本靖士、○柳沢栄司、○南 金三、○大野猪楽
- 林 貞子、○田村京子、○大久保まさ子、○石田哲弥
- 梅田 始、星名忠直、荒井 昭、○川村新治、佐藤義利
- 長谷川昌子、佐藤雅子、杉崎 巖、古山佳朋、斎藤義信

## 平成六年度事業報告

### 一、第二回総会

平成五年十二月五日(日) 富山県氷見市上日寺において、午前  
十時より役員会につづき第二回総会が行われ、久世嘉太郎石川県  
幹事を、議長に選出後議事に入り、平成五年度事業報告、決算報  
告、平成六年度事業計画、予算計画、その他に就いて審議が行わ  
れた。

決算報告については、渡辺三四一会計監査(新潟)の監査承認  
があり、全議案は承認決定されました。続いて二件の研究発表が  
あり、閉会となりました。

#### ①庚申塔・分類試論

滝本靖士(石川県・会員)

#### ②石工・森川栄次郎の研究

尾田武雄(富山県・幹事)

平成六年度役員は、任期二年の規約により全員留任となりまし  
た。

### 二、例会

#### 第五回・平成五年十二月五日(日)

- ・ 富山県氷見市上日寺
- ・ 参加者三十三名。
- 寺内諸堂の見学・観音堂・太子堂などの周辺の古石仏  
や板石塔婆等。

#### 第六回・平成六年三月二十七日(日)

- ・ 石川県鶴来町・参加者六十名。

久昌寺六地藏・養知院丸石地藏五輪塔・千手院の石仏  
・ 一閑院石仏等・白山比咩神社・かたがり地藏・波切不  
動など。

#### 第七回・平成六年六月五日(日)

- ・ 岐阜県吉城郡宮川村
- ・ 参加者三十八名。

杉原玄昌寺・塩屋金清神社・郷土文化伝習館・光明寺

・ 泉洞寺の石仏等

#### 第八回・平成六年九月十八日(日)

- ・ 福井市一乗谷

・ 参加者四十五名。

復元城下町・西山光照寺・小安観音堂・盛源寺・西田  
家などの古石仏等

### 三、会報の発行

第五号 平成六年二月二十七日発行 八頁

第六号 " 五月十日発行 四頁

第七号 " 八月五日発行 六頁

第八号 " 十一月一日発行 八頁

### 四、その他

- ・ 平成六年度 新会員 三十名 十一月三十日現在
- ・ 携帯用拡声器購入
- ・ 平成七年度総会および第九回例会(本日)。

## 平成6年度決算報告 平成6年12月3日

## 収入の部

| 項 目   | 予 算     | 決 算     | 備 考       |
|-------|---------|---------|-----------|
| 前期繰越金 | 11,895  | 11,895  |           |
| 会 費   | 150,000 | 147,000 | 1,500円×98 |
| 例会余剰金 | 30,000  | 100,511 |           |
| 雑 費   | 5,000   | 334     | 利子        |
| 合 計   | 196,895 | 259,740 |           |

## 支出の部

| 項 目   | 予 算     | 決 算     | 備 考           |
|-------|---------|---------|---------------|
| 事 務 費 | 25,000  | 12,573  | タックシール、コピー、用紙 |
| 会 報 費 | 120,000 | 124,218 | No.5,6,7,8会報  |
| 郵 送 費 | 40,000  | 51,160  | 切手および はがき     |
| 備 品 費 | 0       | 13,180  | メガホン          |
| 合 計   | 185,000 | 201,131 |               |

収入合計 支出合計  
 $259,740 - 201,131 = 58,609$   
 次年度繰越金 58,609円

## (参考)

No.5 例会余剰金 5,159  
 No.6 例会余剰金 69,672  
 No.7 例会余剰金 25,680  
 合 計 100,511

No.5 会報代金 36,668  
 No.6 会報代金 18,540  
 No.7 会報代金 30,900  
 No.8 会報代金 38,110  
 124,218

平成6年11月15日

渡 辺 三四一 印

## 平成7年度予算書

## 収入の部

前期繰越金 58,609  
 会 費 250,000  
 雑 収 入 1,350  
 計 309,959

$2,000 \times 125$ 名  
 利息・例会剰余金・等

## 支出の部

事 務 費 27,000  
 会 報 代 130,000  
 郵 送 料 61,000  
 予 備 費 50,000  
 次期繰越金 41,959  
 計 309,959円

事務用品、封筒、用紙類、コピー代等  
 4回発行 -  
 切手、はがき、等  
 総会会場費、講師謝礼、電話代、交通費等

## 平成七年度事業計画

## 一、総会

- ・月日時 平成六年十二月三日(土) 午後三時より
- ・会場 村松町ふるさと会館(新潟県中蒲原郡村松町)
- ・次第 役員会、総会(平成六年度事業報告・同決算報告  
・平成七年度役員・同事業計画・同予算案・その他)
- ・研究発表 村松町とその周辺の寒念仏信仰 梅田始

## 二、例会

- 第九回 六年十二月四日 新潟県中蒲原郡村松町
- 第十回 七年四月九日 石川県担当 中能登地区
- 第十一回 七年六月 富山県担当
- 第十二回 七年九月 福井県担当
- 第十三回 七年十二月 富山県担当および第四回総会

## 三、会報の発行 各例会の1ヶ月前

## 四、その他 平成六年度文献目録の編集 その他

## 北陸石仏の会第十回例会案内

月 日：平成六年四月九日(日)  
集合：午前八時三〇分 JR金沢駅西口

福井 7:20→金沢 8:25  
富山 7:33→金沢 8:24

出発：八時四〇分

コース：①金沢↓羽咋福水町(自動車能登高速経由)

②白山神社 両界板碑など

羽咋市福水町

9:40 8:40  
10:10 9:40

道中 庚申塔、三宝荒神

③山田寺 庚申塔

鳥屋町良川町

10:50 11:20

④海門寺 石塔・無縫塔一五七六

七尾市太田

11:30 12:10

昼食：能登食祭市場 七尾市府中市場

⑤小島の山寺めぐり

七尾市小島

12:20 13:00  
13:10 15:20

小島の舌状台地の二つの谷に、曹洞、浄土、日蓮、法華、真言の十六ヶ寺が密集してある。天正一元和の頃前田利家の指示で集められ、樹齢七百年を越す古木を中心とする林に包まれ静かな所で、妙観院、長齢寺など文化財、石仏も多い。

⑥七尾 妙観寺→金沢 (能登高速経由)

15:20  
17:00

解散：JR金沢駅西口

金沢 17:30→富山 18:07  
金沢 17:27→福井 19:04  
17:19 特急 18:05 18:07

会費：五、〇〇〇円 (昼食代、礼金を含む)

申込方法

申込先 藤村善雄 金沢市藤江北三十二十七

(☎ 〇七六二一六七―三五三九)

方法 葉書に氏名、郵便番号、住所、電話番号

(ただし、非会員の方は往復葉書でお願いします)

締切 三月三十一日

## 文献紹介

一、ストーンサークル書誌紹介

Na 1 一九九三年七月十五日

○「長岡の石造物」長岡市史双書 B 5 一九六 P 二五〇〇円

長岡市史編纂室 〇二五八―三六―七八三

○「吉川町の五輪塔調」吉村 博著 B 5 二八 P 五〇〇円

〒949-134 吉川町原之町一―一九七

〇二五五―四八―二四一九

Na 2 一九九三年九月十五日

○「謎の石造文化」吉川 繁著 B 5 一七〇 P 一八〇〇円

〒943 上越市灰塚六九〇ノ一 吉川 繁

〇二五五―二五―八六四五

○「新潟県郷土誌&仏教誌」岩島 裕著 二五〇〇円

〒942 上越市中央四―一八―九 岩島 裕

〇二五五―四三―九二二四

Na 5 一九九四年六月二十五日

○「郷土たがみ」第四号 木津両衛著 田上の不動尊諸像

○「郷土たがみ」第五号 木津両衛著 田上の石神仏概観

Na 6 一九九四年六月二十五日

○「写真集 ふるさとに拝む」高橋一廣・三廣

A 5 九八P 一五〇〇円

〒949-133 新潟県中頸城郡柿崎町上中山一三二 永原栄一

〇二五五-三六一五三一〇

No. 9 一九九四年十一月十五日

〇「石仏のまちを歩く」柏崎石仏探険ガイド 阿部茂雄著

A 5 八八P 一二二円

〒945 新潟県柏崎市緑町八一三五 柏崎市立博物館(渡辺)

〇二五七-二二一〇五六七

No. 10 一九九五年一月十五日

〇「石仏論文集」石田哲弥著 B 5 一〇二P 一〇〇〇円

〒940-102 栃尾市平二一五-七 石田哲弥

〇二五-五三一三四二〇

## 二、飛騨民俗学会十周年記念号「紀要」

B 5 一五四P 一五〇〇円 平成七年二月十一日

飛騨民俗学会 石仏関係論考

\*久野川の山之神祭りと伝説 下呂町久野川

進藤要松(山神像)

\*お鍛様まつりのこと

大沢野町

平井一雄(桑姫、蚕の宮)

\*『神岡の石仏』道すじの神ほとけ 神岡町桜ヶ岡

若田俊一(道祖神・馬頭観音・庚申塔)

## 三、会員の活動

平井一雄 一九九五年二月十二日 富山市新庄銀座若葉台福寿会(参加者一五人)

「神通川流域の石仏」

「立山地獄・浄土への道しるべ」ビデオ、写真パネルで紹介

### 案内

・砺波郷土資料館友の会編『土蔵』第7号が、発行されました。会員の佐伯安一さんが「天保凶作と飢饉の記録」、平井一雄さんが「神通川のガメ・水神・河童伝承」、尾田武雄さんが「白山信仰と地藏半跏石仏のひろがり」、西井龍儀さんの「プレ千光寺平成大調査」の報告があります。

また会員で砺波郷土資料館長佐伯安一さんの『佐伯安一著作目録』も同時に、発行されました。

『土蔵』第7号と『佐伯安一著作目録』のセットで一五〇〇円で、お分けしています。ご希望の方は、事務局の尾田武雄まで。送料三五〇円。

## 平成七年度会費納入の御依頼

年度が改まりましたので七年度の年会費二、〇〇〇円の納入をお願い致します。

六月末日迄に納入の無い方は退会されたものとみなします。